

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

■特別インタビュー■

中古自動車販売業界の方に聞く

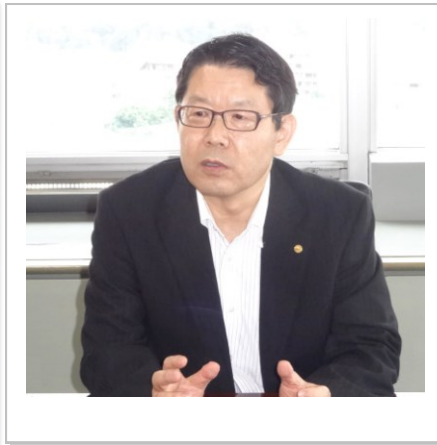
一般社団法人

日本中古自動車販売協会連合会

専務理事 武藤 孝弘 様

産構審・中環審合同会議の委員や『一般社団法人日本オートオークション協議会』の理事など、さまざまな立場でご活躍されている武藤様に今回お話を伺いました。

※以下、本文は敬称略で団体名は「中販連」と表記。



中販連の概要 ～中古自動車販売士・適正販売店認定制度～

—— このたびはお忙しい中、インタビューをお引き受けいただき、ありがとうございます。まずは、中販連さんがどのような活動をされているのか、概要についてお聞かせください。

武藤 中販連は加盟店が1万社。各都道府県に全部で53の支部があります。

中販連では『中古自動車販売士』という資格制度があり、加盟店4000社、約8000人がその資格を持っています。多くの経営者さんから、「受講した従業員たちのスキルが上がり、自信をもってお客様対応できるようになった」と高い評価を受けています。

今年の4月からは新たに『適正販売店認定制度』をスタートさせました。この制度は中販連が定める9つの条件を満たした加盟店を認定するものです。

この制度発足のきっかけは、「消費者から選ばれるお店にならないとこの業界で生き残れない」という危機感からでした。新車ディーラーでは、「新車ディーラーに任せれば間違いない」というイメージ作りのため、新車販売だけでなく、中古車販売、整備・メンテナンス、保険、クレジットまでカバーすべく、セールスマンの教育に力を入れています。中販連としてもこれに危機感を持ち、新車ディーラーに負けないための、お客様のニーズに応える店作り・社員教育を行ない、業界が生き残っていくためにこの制度を作りました。新車ディーラーが囲い込みをしようとしても、100%囲い込みできるわけではないので、「やっぱり新車ディーラーじゃないとダメだな」と思われたいよう、より良い店作りをして、メーカーの囲い込みに対抗していきたいです。

目次

| | |
|---------------|-----------|
| 巻頭言 | 1 |
| トピックス | |
| 特別インタビュー | 1-2 |
| JIS開発事業・第1回WG | 3 |
| 東北大学主催セミナー | 3 |
| トラック・バス部会 | 3 |
| 九州ブロック全体報告会 | 4 |
| 福島県組合活動 | 4 |
| 東京都組合定期総会 | 4 |
| 鉄スクラップ最新情報 | 5 |
| 行事予定・お知らせ | 6 |
| 編集後記 | 6 |

巻頭言

今回は田村副部長と共に、日本中古自動車販売協会連合会(以下「中販連」)に出向き、専務理事である武藤 孝弘 氏へのインタビューを行ないました。

中販連の加盟店は10,000社であり、ELV機構とは規模が大きく異なりますが、業界の生き残りをかけた取り組み、会員の繋ぎ止め方、会員さんへの情報提供への工夫、増加する中古車輸出に対する受け止め方等、大変参考になるお話を伺うことができました。

同じ中古車を扱う業界として、今後も交流を増やしていければと思います。

(広報部会 小宮山 敬仁)

中販連の意志決定

—— 組織として動く中でさまざまな問題が出てくることもあるかと思いますが、中販連さんではどのような組織体制の下でどういった流れで意思決定をしていますか？

武藤 理事会の下に6つの委員会（総務・金融・流通・小売振興・指導環境・検査）があります。各都道府県の会長が理事だけでなく、この6つの委員会に所属します。

理事会が方向性を出し、委員会に諮問し、ワーキング部会を立ち上げて専門家の話を聞いたうえで、最大公約数の施策をまとめていきます。

決められた手続きを踏むことによって、決まった内容を実行しやすい仕組みを作っています。

『適正販売店認定制度』の場合でしたら、会員への指導を担当する『指導環境委員会』と一般ユーザーへのPRを行なう『小売振興委員会』が協力してワーキング部会を立ち上げ、専門家を招いて意見も聞き、イメージを固めたうえで、委員会・理事会の承認を得る流れでした。

一般会員への情報伝達

—— 多くの会員さんを抱えていると、すべての会員さんにしっかり情報を伝えるということが難しくなってきましたよね。そういった点で工夫されていることはありますか？

武藤 本当なら、各都道府県の理事の方々が、各都道府県の会員に情報を伝達するのが理想ですが、情報伝達が十分でない場合もあります。

ですので、ワーキンググループでは現場に近い青年部の会員も巻き込んで議論させる環境を作ったり、各都道府県や本部の事務局が理事と連携して情報の共有化を図っています。

毎月発行している機関紙『月刊JU中販連』も重要な役割を果たしています。



『月刊JU中販連』
（←平成27年7月号の表紙）

毎月1回、月末発行の機関紙。
平成27年6月30日発行時点で
通算484号。

会員数を維持するために

—— 会員数を維持するための工夫や会員数減少への対策などはありますか？

武藤 中販連の会員数は例年1万社程度でしたが、5年前に1万社を切り下降気味でした。そこで、会員拡大キャンペーンを行ない、1万社に戻しました。キャンペーンでは『中古自動車販売士』の意義・価値を会員に伝え、実際に活用してもらうことに力を入れたのが大きかったです。

以前の中販連の会員は、「俺のところは自分の会社の力でお客が来ている、組織に頼らなくても商売できる」と、組織に否定的な意識の方も少なからずいたようですが、最近では、「組織的に皆で協力しないと、個社だけの努力では負けてしまう」という意識に変化しているようです。

中販連では毎年、数百社単位で会員の入れ替わりがあります。退会理由は「廃業」「メリットがないから」等があります。「廃業」には世代交代が背景にあります。今後少子化が進み、廃業での退会はやむを得ないと考えています。

増加傾向にある中古車の海外輸出について

—— 解体業界では玉不足が問題になっているのですが、武藤さんはどうお考えですか？

武藤 中販連としても現状玉不足は間違いはなく、良質の中古車を仕入れるのに苦労をしています。それだけでなくディーラーでの困り込み対策で業販は少なくなる一方です。そこへきて国内需要のある中古車が海外へ流失しては中古車販売業者にとってプラス材料はありません。

ただ、中販連としてはそれらの流れ、つまり経済原則で動いているものに逆らうのではなく、今の現状の中でどのような販売活動ができるのかに注視し、会員支援をしています。



インタビューの最後に、
「昔は幸せな時代。今は普通。
夢を見過ぎてはいけない。
過去を気にするよりこれからのことを
考えていきたい。」
とおっしゃっていたのが印象的でした。

（取材者：広報部会 副部会長 田村幸男、委員 小宮山敬仁）

JIS開発事業、第1回原案作成WGを開催

ELV機構では、平成27年度経済産業省高機能JIS等整備事業として、「安全・安心な社会形成に資するJIS開発」事業を行うこととなり、「自動車補修用リサイクル部品のラベリング規格に関するJIS開発」というテーマで事業を開始しています。(以下、事業名は「JIS開発事業」と表記)

JIS開発事業を進めるにあたって、ELV機構では「原案作成委員会」と「原案作成WG(ワーキンググループ)」の2つを設置し、7月13日(月)にELV機構会議室(東京都港区)にて、「第1回 原案作成WG」を開催しました。内容としては、メンバーの顔合わせや事業内容説明が主に行われました。また、WGリーダーとして、熊本大学法学部教授の外川健一様を選出・承認されました。

▼事業実施体制

| | |
|--|---|
| 原案作成委員会 (予定) <ul style="list-style-type: none"> ・規格策定の方向性の確認 ・原案に対するコンセンサス | |
| 生産者 <ul style="list-style-type: none"> 日本ELVリサイクル機構(事務局) 日本自動車リサイクル部品協議会 日本トラックリファインパーツ協会 RUMアライアンス | 中立者 <ul style="list-style-type: none"> 山口大学(委員長:阿部 新 准教授) JETROアジア経済研究所 日本損害保険協会 日本自動車工業会 日本自動車部品工業会 自動車技術会 日本規格協会 経済産業省製造産業局自動車課 国土交通省自動車局整備課 環境省リサイクル推進室 |
| 使用・消費者及び販売者 <ul style="list-style-type: none"> 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車車体整備協同組合連合会 日本中古自動車販売協会連合会 持続可能な社会をつくる元気ネット 全日本自動車部品卸商協同組合 | オブザーバー <ul style="list-style-type: none"> 経済産業省産業技術環境局国際標準課 |
| 原案作成WG <ul style="list-style-type: none"> ・業界関係者の意見集約 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 熊本大学(リーダー:外川 健一 教授) 日本ELVリサイクル機構(事務局) 日本自動車リサイクル部品協議会 日本トラックリファインパーツ協会 | <ul style="list-style-type: none"> 日本規格協会 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 株式会社JARA RUMアライアンス |

▼事業概要

JIS開発事業では何をやるのか?

= 自動車ユーザーにとってわかりやすい情報の表示方法(ラベリング)をJISとして定める。

1. 基本的情報項目の共通化
2. 識別・表示方法の開発
3. 情報の評価方法の開発

その中での原案作成WGの役割とは?

- ① 国内流通の調査
- ② リサイクル部品使用中の不具合対応の方法に関する検討
- ③ 識別・表示方法の調査
- ④ 表示方法の技術調査

東北大学とのセミナー共催、決定 トラック・バス部会、見学会を開催

《自動車リサイクルに関する技術セミナー》

- 日時 平成27年8月20日(木) 13:00-16:30
- 場所 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学片平キャンパス北門会館2階
- 参加方法
8月3日(月)までに案内文書の別紙1にて参加申し込み(参加費無料)
※案内文書などの詳細は[こちら](#)

ELV機構は、本年度も東北大学主催のセミナーに共催という形で協力することとなりました。

このセミナーは、「リサイクルビジネスの新展開を目指す自動車リサイクルに関する技術セミナー」という形で、ELV機構もこれまでの資源循環に向けた取り組みについて発表を行います。

8月3日(月)まで参加申し込みを受け付けていますので、ご興味のある方は案内文書の別紙1に必要事項をご記入のうえ、ぜひお申し込みください。

(※案内文書などの詳細は[こちら](#)をご確認ください)



6月26日(金)、ELV機構のトラック・バス部会は、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)と共同で「商用車架装物解体作業見学会・意見交換会」を開催しました。

当日は、日本自動車工業会や日本自動車車体工業会の方なども含めて23名が参加し、株式会社ダイワ商会(長野県安曇野市)にて、タンクローリーのタンク部分をシャーシから切り離してタンクを手作業で溶断していく様子を見学しました。

その後、意見交換を実施し、今後も関係者で協力しながら見学会を継続していくことを確認しました。

九州ブロック、ブロック内全会員対象の報告会を開催



[写真:九州ブロック 伊地知 志郎 ブロック長]

7月18日(土)、「第2回九州ブロック全体報告会」がホテル日航熊本(熊本県熊本市)で開催されました。

当日は、ご来賓の方や会員の方、合わせて58名のご参加をいただき、本部からは河村代表理事が参加しました。

来賓挨拶として、九州経済産業局 リサイクル推進課 課長 森永 峰次 様より、「自動車リサイクル法の施行から10年を迎え、これからが大事な時期であり、ELV機構の先導的な取り組みは、自動車リサイクル産業界全体の発展に貢献するものと大いに期待している」といったお言葉をいただき、自動車再資源化協力機構 業務部部長 柴田 芳徳 様にもご挨拶をいただきました。

その後、自動車再資源化協力機構 管理部マネージャー 三淵 亮 様より、「フロン類・エアバッグ類適正業務の重要ポイント」の説明が行われ、質疑応答ではエアバッグのネット販売の現状について質問があり、「使用済自動車のエアバッグは販売できない」と回答がありました。また、基調講演では、講師として株式会社プロトリオス 小川 直紀 様をお招きし、「次世代自動車についての最新情報と対応する解体業」というテーマでハイブリッド車での解体作業や衝突軽減回避システムについてご説明いただきました。

続く交流会では、九州地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 課長 藤岡 満樹 様にご挨拶をいただき、「このような交流会や情報交換の場は今後も必要である」とおっしゃっていました。報告会・交流会を通じて会員同士のつながりも深まり、「また来年も続けてほしい」といった声もありました。

福島県組合、ボランティア活動



さる6月27日(土)に猪苗代湖舟津浜において、猪苗代湖・裏磐梯湖沼の水環境を保全するため、自然保護団体や流域小中高校などが行う水環境保全活動へ助成を行っている猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会主催の「猪苗代湖クリーンアクション2015」が開催されました。

これは毎年行われているもので、浜に落ちているゴミやヨシを拾い集めるボランティア清掃です。今年は前夜からの大雨のせいもあって昨年より若干少ない380名の参加者で行われ、福島県自動車リサイクル協同組合からは24名が参加しました。あいにくの雨模様で足元が悪い中でしたが、無事作業を終えることができました。

同組合としては、毎年恒例の参加行事ですが、今後も組合員に声をかけ、環境意識が下がらぬよう組合としてできるだけ環境保全活動に参加していく予定です。

東京都組合、定期総会を開催



7月5日(日)、東京自動車リサイクル協議会は、ザ・ホテルベルグランド(東京都墨田区)にて、第8回定期総会を開催しました。

当日は、ご来賓として自動車再資源化協力機構の方などが招かれ、会員も含め約30名の出席があり、本部からは酒井副代表理事が出席しました。

総会での議案は、「1号議案 平成26年度 活動報告」から「5号議案 平成27年度予算(案)」まであり、「3号議案 平成27年度・28年度役員(案)」では会長として株式会社吉澤商店(東京都江戸川区)の吉澤 勇 代表取締役が再任されました。

続く講演会では、自動車再資源化協力機構より、「エアバッグ類発生状況及び車上作動処理業務の重要ポイント」というテーマで説明がありました。

講演会後には懇親会が開催され、取引業者の紹介などがあり、参加者同士の交流が図られました。

■ 7月第3週(17日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供/日刊市況通信社]



7月17日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

| | | H2 | 気配 |
|-----|-----|-----------------|--------|
| 関東 | 北関東 | 22,000 ~ 23,000 | 軟調 |
| | 南関東 | 22,000 ~ 23,000 | 軟調 |
| 名古屋 | | 23,000 ~ 24,000 | 値下がり |
| 関西 | 大阪 | 23,500 ~ 25,000 | 弱含み様子見 |
| | 姫路 | 22,500 ~ 23,000 | 弱含み様子見 |

鉄スクラップ輸出価格が先行下落 韓国向けH2、FOB・21,800~2,000円に

日本産鉄スクラップの輸出価格が国内相場に先行して下落している。韓国ミルによるH2打診価格は1トンあたりFOB・22,000円どころとなった。

商社筋によると、9月積みの商談を行なっている現代製鉄は15日にH2でFOB・21,800~2,000円を提示。前週7月第2週末の現地ミルの提示価格に比べて500~1,000円安となった。足元のH2浜値(FAS・22,500~3,000円)からは2,000円近く安値水準にある。また、新断の輸出商談価格も下落している。現代製鉄による15日時点の希望購入価格はFOB・25,000円となった。

現代製鉄はこれまでに日・米・露の各国からの輸入契約を進めており、8月着分までの手当てはほぼ完了しているもよう。また「輸入玉の到着に加えて韓国国内の荷動きが上向いているため、現地メーカーのスクラップ在庫も増加している」(貿易筋)という。米国HMSディープシー玉の下落も弱材料として、日本に対して値下げ要求を強めている。

【関東地区】電炉筋の値下げ散発で軟調 船送り水準高く 一部で品不足感も

関東地区の鉄スクラップ市況は、契約納入筋など電炉筋の値下げが散発しているため軟調の推移が続いている。ただ、南関東電炉を中心に様子見姿勢の電炉筋が多いのが現状だ。北関東では引き続き一部電炉が荷受制限を実施しており、周辺電炉の入荷が好調。北関東市場では先安観が大勢で、電炉筋の追加値下げも予想されている。H2炉前実勢価格は22,000~3,000円中心。H2浜値は22,500円中心。

【東海地区】名古屋地区のメーカー実勢価格、下値が切り下がる

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、2週連続で値下がりを続けた。一部特殊鋼メーカーが15日からさらに一律500円方の先行値下げを実施したことから、業者筋の多くはこれに歩調を合わせて500円方の仕切り値下げへ動いている。地区市況の値下がりは今月3回で合わせて1,500円(一部品種2,000円)方となった。H2炉前実勢価格は23,000~4,000円中心。H2浜値は22,500円中心。依然として下げ含みで週末入りする公算が大きくなっている。

【関西地区】下げ足鈍化気味も下落圧力は解消せず

大阪地区の鉄スクラップ市況は弱含みだ。高値筋を含め、日々が入荷がさほど上向いてこないことを理由に、他地域や輸出に比べても割高な価格帯が維持されてはいる。しかし 月末からの炉休入りに伴い需要が減退するとみられ、下げ対応の足並みは揃ってはいないものの、値下げの圧力が衰える気配はない。H2炉前実勢価格は23,500~4,500円。一部高値25,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は22,500~3,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、7月16日午後時点のもの)

行事予定

■ 8月の主な予定

8月 5日(水)

・ 第3回 リサイクル技術部会

8月 6日(木)

・ 第2回 常任役員会

8月18日(火)

・ 第5回 広報部会

8月20日(木)

・ 自動車リサイクルに関する技術セミナー

8月25日(火)

・ JIS開発事業 第2回 原案作成WG

8月26日(水)

・ 第2回 ブロック長会議



お知らせ

■ 会員数(2015年7月時点)

総数 599社 / 会員 573社、賛助会員 26社

■ 新規ご入会者のご紹介(2015年7月ご入会)

【会 員】

長野県安曇野市「株式会社 ダイワ商会」様

【賛助会員】

岡山県岡山市 「有限会社 カネヒラ商会」様

■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年7月時点)

| 資格の種類 | 平成 25年度 | 平成 26年度 |
|--------------------------------------|------------|------------|
| 自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程) | 4名 | 37名 |
| 自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程) | 15名 | 59名 |
| 自動車リサイクル管理士 | 626名 | 194名 |

編集後記

とにかく今年の夏は暑さが際立っているように感じます。メディアでは各地の気温の高さを盛んに伝えていますが、しかしいくら騒いでみたところで、大自然の運行や現象に我々人間が刃向かえるものではありません。我々ができることは、せいぜい熱中症にならないよう水分補給をする、暑さを理由にしたビールの痛飲に注意することぐらいでしょうか。▼さて、今月のニュースレターでは日本中古自動車販売協会連合会(以下、中販連)武藤専務理事のインタビューをお届けいたします。武藤専務理事は産業構造審議会自動車リサイクルWGに委員として参画し活躍されておられます。中販連としての課題も我々リサイクル業界と同様に、将来に対する課題、すなわち生き残るための施策をいかに計ってゆくかというところにあります。しかし混沌としたこの時代、ずば抜けた妙案がそうそう転がっているものではありません。そこに組織運営の憂いを感じられてなりません。武藤氏の言われる「夢を見過ぎてはいけない」というメッセージは我々業界にもいえることではないでしょうか。

(広報部会 部会長 永田 則男)